



丸田 絵美 (チャレンジ調査)

児童クラブの現状と支援員の処遇改善、凶悪化する犯罪対策について



問 児童クラブのニーズは今後より一層高まるものと考えられる。市としてのニーズ把握と課題の分析、対策について問う。

子生部長 児童クラブ入会申請者数は年々増加。入会保留児童発生が課題。施設整備や職員に加配等で受入れ人数の拡大を図る。

問 児童クラブと放課後子供教室事業あそびの連携の現状と、子ども居場所について見解は。

子生部長 児童クラブ、児童館放課後子供教室事業あそびの事業充実や相互の連携強化で放課後の居場所対策を図る。

問 放課後児童支援員の処遇改善を図り質の向上につなげるべき。

自治体参考にするべき。見解は。
危管部長 ①犯罪等の発生状況踏まえ、総合的に判断し設置②他自治体の事例も参考に検討。

問 バイト対策でもフィルタリングが問題。「絶対に守る」という強いメッセージが必要。市の責務と対策、取組は。

危管部長 安心して相談できる場所があることを広く伝えることが大切と認識。調布警察署と連携し周知啓発等に努める。



通学路防犯カメラ設置区域の掲示



木下 安子 (生活者ネットワーク)

まち全体を学びの場に 子どもの参画で校則の見直しを



問 市の5年度不登校児童生徒数561人で約100人増。長期欠席続き、学校等とのつながり希薄で多くの親子が孤立。①調布市子ども条例の観点から市長の受け止めは②学びを保障する立場として教育長の課題認識と対策は。

市長 ①一人一人と向き合った支援が必要。教育委員会等、様々な機関と連携し、取組を進める。

教育長 ②学習の遅れや、社会とのつながりの希薄化等の課題を認識。学校が一人一人に寄り添い、多様な学びの場等につながるよう指導する。

も連携し、学びの場の拡充を。出席扱いに関するガイドラインを設置するなど、教育委員会がリードし、不登校児の自己肯定感につながる前向きな評価を。

教育部長 子ども若者総合支援事業ここあや民間の居場所施設等と連携強化を図り、学びの場の充実を図る。一人一人の状況に合わせた目標を設定、努力の成果を積極的に評価し、自己肯定感を育む指導の充実を図る。

問 生徒指導提要の改訂の背景には子どもの権利踏まえたことも基本法があり、ルールづくりへの児童生徒の参画は教育的意義を有するとある。学校への周知と実践状況は。基準や合理的理由が不明瞭なルールは子どもの心を萎縮させ考える力を奪う。人権の観点から検証と見直しを。



2022年12月に改訂された生徒指導提要

教育部長 研修等で改訂内容周知。理由を合理的に説明できない校則の見直し重要。児童会・生徒会等で校則を確認、議論の場を設け、積極的な見直しが必要。マイナスイメージを受ける児童生徒いないか等の検証・見直しも重要。必要に応じ校則見直しよう周知。



清水 仁恵 (チャレンジ調査)

「子育てしやすいまち」を更に前進させる施策の推進を



問 6年3月発行の市子ども子育て支援に関するニーズ調査報告で、未就学児の母親の就労状況は6割超。ニーズ捉えた支援必要。子育て分野での市民との協働等、地域で子どもを見守る体制構築について次期調布子すこやかプランへ位置づけを。

市長 調布市子ども条例の理念に沿い、健やかな子どもの育ちへの支援に引き続き努める。

子生部長 地域社会での子育て体制を求める回答多く、不安を抱える家庭が増加。様々な分野の関係機関を含めた有機的な連携必要。次期プランに連携体制による取組の充実を位置づけ。



閉店を惜しまれる多世代交流の場 子育てカフェaona(6年度末閉店予定)

問 平成27年設置の調布駅南口「子どもフラット」について一時・定期利用保育は4年度に移転、子育てカフェaonaは6年度末閉店を予定。本経緯への所見と今後の活用方針を問う。

子生部長 プレイセンターちよつふは親子の遊びの場として親しまれており、子育てカフェaonaは保護者の交流の場として重要な役割担ってきたと認識。スペースの活用は引き続き検討。



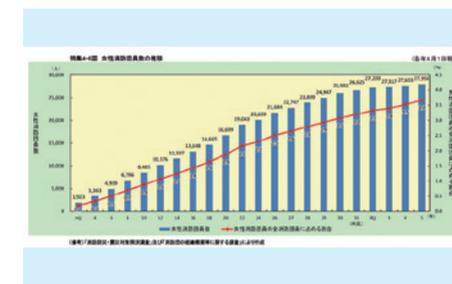
藤川 満恵 (公 明 党)

多様な学びと居場所・女性消防団員・デフリンピックについて問う



問 不登校児童・生徒への多様な学びの機会充実と居場所支援について①取組は②フリースクールや、自宅等で授業にオンライン参加した場合の出席扱いは③個性が尊重され安心して学び成長できるような教育と福祉など庁内連携での支援が重要。見解は。

教育部長 ①適応指導教室太陽の子設置や訪問型支援みらい実施。6年度は各学校にステップルーム等整備②訪問等対面指導の適切な実施等の要件の下、校長判断で指導要録上出席扱い③調布市子ども若者支援地域ネットワークを構成。専門性生かして一人一人の状況に合わせ支援。



総務省消防庁 「女性消防団員数の推移」

問 消防団は地域防災力に欠かせない存在。①現在の団員数や女性消防団員が在籍していないことを踏まえた現状と課題は②災害時や避難所にも女性の視点は重要。ジェンダー平等の視点を踏まえ、女性消防団員推進の取組を。



楽器紹介



演奏の様子

危管部長 ①欠員が生じており、団員確保が課題②消防団本部は、女性の活動への理解など双方が男女の区別なく活動できる取組を推進。市は、施設整備や広報等、女性消防団員入団と円滑な活動につながるよう支援。

問 7年、100周年記念大会として日本で初開催されるデフリンピックの競技会場市として①認知度向上や障害理解促進、手話リレー動画等を活用し、手話等の普及を啓発。